

令和 8 年地域井戸端会 報告書

開催日時	令和 8 年 5 月 8 日(金) 18 時 30 分～20 時 30 分		
開催場所	大麻まちづくりセンター	参加人数	9 人
出席議員	岡本正友 小川稔宏 遠藤祐之		
テーマ別に 出た意見	【総務委員会】防災と避難行動計画について ～災害が起きたらどうしますか？自分と家族を守るための行動～ ・大麻地区は広範囲で災害の種類により避難が難しい ・町内会員の意識をどう高めるか ・家庭内で災害に対する意識を共有する必要がある ・高齢者の独り暮らしへの支援 ・本当に動くべきか悩む ・防災ハザードマップの見開きの要の部分が見えにくい ・普段の人間関係の構築が必要 ・関係人口を増やす		
	【文教厚生委員会】子どもや高齢者の暮らしの困りごと ・大麻地区には子供が一人しかおらず、友達と遊ことすら難しい（公共機関の便が非常に悪く、保護者の送迎が必須なため）大麻診療所は現在利用者が 5 名しかいない。昔は入院もできたが今はできない。折居駅は婦人会が交代で掃除をしている。カフェ FUN は使命感で仕事をしている。 ・海端の地域なのでエアコンの室外機が錆びて故障する。空き家バンクのハードルが高い。		

	【産業建設委員会】100年先に残したい浜田の食 ・地域の食文化・特産品の継承 ・フキ、タケノコなど磯辺や地域の旬の食材を、100年先にも食べられる地域として残したい。 ・ボベ飯、鯖のいり焼き（煮食い）、おまん寿司、鯖寿司、角ずしなど、地域独自の食文化を継承したい。 ・かまぼこ店など、地域の食産業が店とともに失われつつあり、廃れさせたくない。高齢化により作り手や継承者が不足しているため、技術や文化を引き継ぐ仕組みが必要。 ・地域産品の魅力発信とブランド化 ・浜田には良質な米、イチジク、ブドウなど優れた農産物があるが、認知度が低い。室谷の米など、他地域ブランドに負けない魅力がある。地域の良いものを広く知ってもらうため、市による情報発信や支援強化が必要。 ・事業承継・人材マッチング支援 ・良いものがあっても、個人だけで後継者探しや商品開発を進めることは難しい。「店を閉めたくない人」と「新しく挑戦したい人」をつなぐ仕組みが必要。 ・貸し手・借り手双方の情報整理やサポート体制、現状把握とマッチング支援が求められる。市が中心となり事業承継や産業支援の体制整備を進めてほしい。 ・食を活かした新たな取組 廃校を活用した陸上養殖など、新たな地域産業の可能性がある。 ・地域おこし協力隊による料理人育成支援事業内容が必要な事業者十分に情報が届いておらず周知強化が必要。 ・レトロな喫茶店など、地域らしい店舗や雰囲気も貴重な地域資源として残したい。お魚市場への誘客や周辺地域への回遊につながる施策を期待する。
--	---

自由意見	【総務委員会】 ・ 空き家増えているが今後どうなるか心配 ・ 共同募金等を簡素化すべき ・ 周辺の踏切の草刈りや整地体格が必要 ・ 折居駅内の落書き帳あり（記帳多数）
	【文教厚生委員会】 ・ 観光コースを回るタクシーの整備が必要。せっかく折居駅にきてもらっても、汽車の便が不便で他に行くところがない。 ・ 孫の付き添いで折居駅を見に来たが、年寄りはどこで時間を潰したらいいのか。浜田駅を降りてもお茶をする場所（時間を潰すところ）がない。 ・ 山陰道が益田までつながり、浜田の人がみんな益田に買い物に出掛けてしまう。 ・ 空き家が多くある、その中に素晴らしい空き家もあるが、空き家バンクのハードルが高い。
	【産業建設委員会】 ・ JR 折居駅の活用と地域資源化 ・ JR 折居駅を 100 年先まで残したい。 ・ 景色やロケーションの良さを活かした活用が期待されている。 ・ ヨシタケ缶コーヒー製造工場としての活用案も出ている。 ・ 駅舎にトイレがなく不便なため、環境整備が必要。 ・ まちづくりセンターでは、今年度から折居駅活用の委員会を立ち上げて検討を進めている。 ・ 市民参加・情報発信の改善 ・ このような会への参加にハードルを感じる人も多い。 ・ 広報や SNS を活用し、気軽に意見を言える機会づくりが必要。

	・幅広い世代からアイデアを集め、市政へ反映できる仕組みを強化してほしい。「やっているだけ」に見えないよう、募集方法や参加手段の周知を充実させる必要がある。
--	---

令和 8 年 5 月 8 日 岡 本 正 友